

【別紙1】大賞受賞者コメント・写真・選考委員講評

○小説『旅の裏側』 まつやま たいせい 松山 泰生 (90歳) (東京都杉並区)

古典を耕し知識を養う行為は、日々凡々を貪る身にとって容易なことではありませんが、今回「更級日記千年紀の催し」では充実した日を送らせていただきました。そのうえ賞まで戴くことになり、大変感謝しております。



これを機に更級日記を一層深掘りし、私なりの仮説を立ててみたいと思います。最後に、再度謝意を申し上げます。今回は本当に有難うございました。

○紀行文・随筆『千三百年の時の流れの中で』 きののだ ひろひこ 木野田 博彦 (64歳) (埼玉県さいたま市)

この度は大変すばらしい賞に選定していただき、誠にありがとうございます。とても感激しております。母のふるさと千葉県中市原の地で、母と偶然立ち寄った万葉集東歌の歌碑を見た時のことを思い出し 1300 年もの前、市原の地でこの歌を詠んだ女性に思いを馳せ、自分なりにあれこれ想像しながら書き綴ってみた文章でした。



4 年前に亡くなった母も、きっととても喜んでくれていると思います。

≪一般の部 選考委員長椎名誠氏講評≫

今回も両部門ともすぐれた作品が揃った。小説の部で大賞となった「旅の裏側」は私小説っぽいおじいさんと孫娘との会話を中心に、更級日記にちなんだ朗読劇についての話が描かれる。作者の恐らく深い文学的な履歴がものを言って、落ち着いて含蓄の深い作品になっている。

随筆・紀行文の部でも市原と更級日記を背景にした作風のすぐれた作品が集まっており、とくに「千三百年の時の流れの中で」は防人とその妻との思慕の情を描いてすばらしい。

○小学生 (短歌) よこみち ひかる 横道 玄 (11歳) (山口県光市)

「自転車の タイヤがうでに伝えてる ほそうされない 道のでこぼこ」

第2回更級日記千年紀文学賞の小学生の部で、大賞に選んでいただきありがとうございます。僕は自転車が大好きです。いつもは、アスファルトでほそうされた道を行くのですが、わき道に入った時にほそうされていない道を進みました。その時いつもの道と違いガタガタとタイヤが直接腕に、道のでこぼこを伝えてくれました。その時のことを思い出して作った短歌です。これからも、いろいろな経験や思ったことを短歌にしていきたいと思います。



≪小中学生の部 選考 市原歌人会講評≫

うまく乗れるようになった自転車で舗装されていない、林や田んぼの中の農道を行く時に体で感じたことを歌にまとめたのでしょうか。でこぼこ道の振動をタイヤがうでに伝えて来るという言葉の配置や表現のうまさ。爽快感と繊細な感覚が見事な作品として生まれたと思います。

○中学生（短歌） ^{かどわき}門脇 ^{はやと}隼斗（13歳）（宮城県岩沼市）

「あぜ道を 走り抜けてく ぼくだけが オリオン座に今 見守られてる」

このような大きな賞をいただけるとは思ってもいなかったもので、とても嬉しく思っています。この短歌は、寒い冬の夜に細いあぜ道を走る少年の姿です。心細いはずなのに、オリオン座に見守られているため、一人きりでも心細くない、という気持ちが伝わるように工夫して創りました。これからも日常で起きたことを題材にしながら短歌を創る習慣をつくっていきたいと思っています。このたびはありがとうございました。



《小中学生の部 選考 市原歌人会講評》

中学生ともなれば、体力造りとしてランニングすることも頻繁になって来ることでしょう。

夜空に輝くオリオン座を仰ぎ畦道を駆け抜けるとき、僕だけがオリオン座に見守られている、オリオン座を今だけ独り占めにしているという高揚した気分が、爽やかに伝わってきます。